

2-⑫ 指導計画の改善

学習の基盤となる資質・能力の設定を視点にしたカリキュラム・マネジメント

新潟市立岡方第二小学校 佐藤 貴子

1 研究の視点に関する実態

当校は、目指す資質・能力を「言語能力」に絞り込んでいる。本年度から「論理的に言語で表現する力」を育成するための教育課程の編成と指導方法の改善を重点としている。外国語活動及び外国語は、この力を高めることに適している。主語と述語が明確な言語である上、新教材は相手に自分の思いやその理由を伝える必然が生じる内容になっているからである。

一方、「覚えられないから英語が嫌い」とアンケートに回答する児童が多い。そこで、「覚えさせるのではなく、子どもと内容のやり取りを楽しむ」「目的を示して表現を溜め、気長に指導に当たる」と指導観を変え、実践を積み上げることにした。

2 改善のための具体的な方策と取組内容

次のように、国語、外国語・外国語活動、総合を関連付けて取り組んでいる。

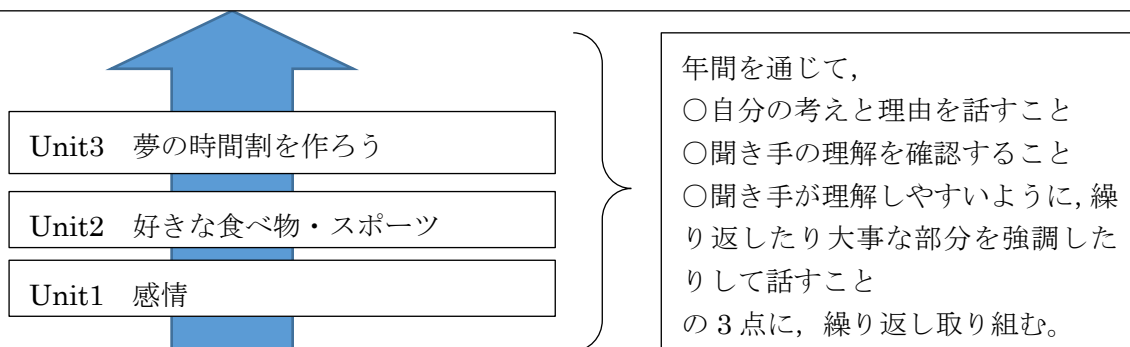
(1) 国語で問答の基本パターンを身に付ける

4月から国語を核として、つくば言語研究所の開発した「問答」等についての指導を開始（全校15分モジュールを週1回活用）した。その結果、「好きか嫌い・賛成か反対か」等をテーマにした質問に対し、即座に主語が入った文で理由を付けて答える児童が増えてきている。

(2) 外国語での取組

「話すこと【やり取り・発表】」では、次のように高学年の目標を設定した。そして、次図のように年間を通して取り組む内容（題材や使用する英語表現等）は変わっても、1年間継続して「自分の考えと理由を話すこと」に取り組み続けることとした。

考え→考えの理由→結論 のモデルを用い、自分の考えに理由を付け、聞き手の理解に応じて繰り返したり強調したりしながら話す（やり取り・発表）ことができる。



(3) 総合と関連付けたコミュニケーションの相手の設定

6年生は、総合的な学習の時間と往還させ、ゴールとして11月に新潟空港での学習活動を設定した。そこで、岡方に300年傳承されている神楽舞を披露し、自分の好きなところやその理由、空港からの道案内を英語で紹介することを目標に、使える英語表現を帯活動として溜めている。

3 取組の成果と残された課題

国語で身に付けた問答の技術を外国語でも意図的に発揮させる場を設定したことで相乗的な効果が表れてきた。教師と児童双方に無理なく実践が進められている。身に付けさせたい力を絞り、長いスパンでの「繰り返し」を意図的に生み出したことが成果を上げている。今後の課題は、「保護者や地域の人々による承認と共有」と「三教科の関連付けの強化に資する評価システムの構築」である。